

令和7年度練馬区立北大泉幼稚園 学校評価報告書

練馬区立北大泉幼稚園
園長 金子 洋子

1 自己評価結果

(1) 概要

① 教育活動について

[成果]

・今年度は、開園50周年記念の1年として、長年歴史を積み重ね育まれた自然環境を始めとする豊かな環境の下で、子どもが子どもらしく伸び伸びとそして生き生きと園生活を送れるように努めてきた。幼稚園経営としても、開園50周年を意識し、今まで積み重ねてきた質の高い教育活動の継承や維持に向けて、教職員一人一人が意欲的に保育の充実に向けて取り組みつつ、細やかな連携を図っていき、これまで同様の教育活動の提供を心掛けてきた。そして、このような取組を、保護者を巻き込んだ教育活動として実現していき、保護者の理解・協力にもつなげていくことができた。また、園児数は少ないながら、また、特別な支援を必要とする幼児の多く在籍する中でも、人と人がつながり合い関わり合う活気あふれる教育活動を展開していくことができた。担任陣においても、充実した教育活動の実践に努め、保護者の参観・参加の機会での取組の工夫や、学級・学年通信のこまめな発行、保護者との関わりの時間の確保など、意欲的に教育活動に取り組む姿が見られた。写真入りトピックスの掲示板への貼り出しも定着し、幼稚園としてわかりやすい発信を心がけ、実際に目にするのと様々な発信情報との両面から子どもたちの様子を知ってもらえるように努めた。時には、在園保護者だけでなく、未就園児保護者に対しても効果的にICT機器を活用し幼稚園での教育をわかりやすく伝えることで教育活動の理解や周知につながっていった。アンケートでは、保護者からは肯定的な評価項目が多く、どの項目もほぼ100%と言える肯定的な評価結果となったのは、上記のことの成果であると考えている。

[課題]

・友達と一緒にすることへの参加や相手の思いや気持ちに気付く・感じるなどの思いやりの面での育ちについては、個性や特性によって個人差もあることから成長を感じにくい場合もあり、評価がやや低かった。

[改善策]

・様々な個性や特性をもった子どもたちが一緒に過ごす中で育っている思いやりの姿を丁寧に捉え伝えていき、個々の個性や特性で難しい面はあることへの理解につなげたり、日常的に人と関わる機会を丁寧に積み重ねていけるよう工夫を凝らすなどが必要であると考えている。

② 家庭・地域との連携について

[成果]

・50周年記念としての幼稚園での活動に保護者が参加したり関わったりすることが多かったこともあり、子どもだけでなく保護者も直接体験をすることや特別な体験をすることを通して幼稚園教育への理解を深めていってもらえることができた。また、学年通信や園だよりでは、分かりやすく写真を取り入れ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を毎回書き込み、幼児の学びや育ちを知ってもらうことを意識してきた。その他、全員の保護者が毎日見る掲示板への出来事写真の掲示は、他学年の教育活動の様子も伝わりやすくなり理解の推進につながる取組となった。また保護者会では前向きな参加に促す取組として、ICT機器を活用し、各種便りや掲示では未出の写真中心のスライドショーを毎回行い、幼児が楽しんでいる歌や遊びを紹介して体験してもらう時間も設けるなどし、幼稚園の教育のありのままをわか

りやすく伝える工夫に努めてきた。保護者の興味関心をとらえ、伝わりやすさを意識したことで、遊びの様子や育ちについて理解してもらうことができた。また弟妹連れでも参加しやすいように工夫をしたことも保護者から評価が高く、継続的な取組にしていきたいと考える。

[課題]

- ・保育参観・参加など直接参加の機会を楽しんでくださる保護者が多い反面、就労している保護者や特別な配慮を必要とする幼児の保護者は、参加の頻度が低くなりがちで、やや負担と感じている様子も見られた。
- ・新入園児獲得も見据えて、未就園児保育の充実を目指し、実施時間や活動内容の工夫を重ね、利用者の増加を図ったが、地域の未就園児の減少（保育園就園率の高さ）もあり、参加者の減少や乳児の利用が目立ち、努力が成果につながらなかったのは大変残念である。また、毎月の入園説明会においても、特別な支援を必要とするお子さんの保護者の利用がほとんどで、就学前の施設として幼稚園を選ぶ保護者の減少を顕著に感じている。

[改善策]

- ・保護者会では、対面で伝えるよさや参加する必要感を感じてもらえるような内容の精選や周知の工夫をしていくなどが必要である。保護者参加の活動では、子どもたちに過度な負担とならないよう配慮するなど、実態を考慮し新たな視点をもって在り方を考えていく。
- ・地域の未就園児家庭の利用の増加を目指し、誰もが気軽に利用できる就学前の施設として位置づいていけるように、近隣の未就園児保育実施機関などの情報も共有しつつよりよい実施の方法を探っていきたい。

③ 安全・安心な幼稚園について

[成果]

- ・教職員による日々の点検等こまめに行い情報を共有していくことで、早めの対応につながり、安全で安心な幼稚園を維持することができた。また、子どもたちとともに、安全指導や避難訓練を毎月欠かさずことなく繰り返し取り組んでいることで、子ども自身が安全に過ごすために必要なことがわかって行動することができるようになっていく。そのことは保護者にも伝わり、危機管理や緊急時の対応などに安心していただいているという結果につながっている。

[課題]

- ・施設の老朽化だけでなく、機器の劣化・故障が見られるようになり、特に防犯系機器における故障不具合が深刻で、安全のためになんとか人手を確保し安全管理に努めている状況であるため、早急の対応が望まれる。一昨年の大木伐採以降、園庭の木陰がほとんどなく、夏の時期の熱中症対策も懸念事項である。

[改善策]

- ・引き続き日々の安全点検を丁寧に行いながら、危険の未然防止に努め、園内で対応が難しいところは関係部署へ働きかけ、専門業者による修理や診断の実施に尽力していく。

根拠となる資料 別紙1-1、1-2

2 学校関係者評価

(1) 総括

[成果]

- ・自然環境の豊かさとそれを生かした教育活動の展開に向けて、50年余りの歴史の中で培われた園の特色を生かし工夫を凝らしている様子を感じられ、それが、子どもたちの成長につながっている様子が50周年記念の行事を含め、様々な機会を確認することができた。どの子どもも笑顔で伸び伸び生き生きと安心して遊んでいて、活気に溢れている姿を嬉しく思う。多様性に対応しながら、一人一人の子どもに寄り添って、丁寧な援助を実践している教師の努力がまさに子どもたちの姿に表れていると考える。
- ・各種行事においても園児数の少なさを感じさせないような工夫に溢れ、少ない人数だからこそ保護者も一緒に巻き込んで楽しさを共有している様子に活気が幸せに満ちていてとてもよい。

地域の施設や区他機関（消防署、図書館、清掃事務所）と積極的に交流しているところも区立幼稚園ならではの強みであるのではないかと。

- ・保護者によるアンケート結果のほとんどが高評価であること、また自由記述の内容からも、園への信頼感・期待値の高さが感じられる。地域への評価の高さが記述でも表れていたのは、私たちとしても嬉しい結果である。

[課題]

- ・園児数の減少は、大きな課題である。変わらずに質の高い教育をしているところより特別な配慮や支援の必要なお子さん寄りになっているといった北大泉幼稚園経験者の声も聞かれ、そうではなく、どの子にとっても居心地のよい子どもらしく過ごせる幼稚園であるというよさを伝えていくことが必要なのではないだろうか。

[改善策]

- ・どの子にとっても心地よい教育活動の取組に本当になっているか、偏り等がないかなど見直し・改善に努め、幼稚園を様々な方法で発信していく努力をさらに重ねていく。修了児保護者の力を頼りにしつつ、園外での保護者のサークル活動の機会を広げたり、園庭開放利用の告知など、地域の未就園児親子の目に留まるような発信の工夫をしていく。

3 評価結果の公表等

自己評価及び学校関係者評価の結果概要を、年度末保護者会にて説明する。また、本報告の概要を本園ホームページに掲載する。

4 次年度の学校改善に向けた園長の見解

(1) 中期経営目標の実現に向けて

- 多様性を尊重し一人一人が伸び伸びと自己を発揮し自分の力を伸ばし共に育ち合う幼稚園
- 地域に根ざし地域を取り込む幼稚園づくりの推進
- 安全・安心な幼稚園
- 教員の資質向上と教育の参画意識の向上

一人一人が自分らしさを輝かせ、多様な友達との出会いを通じて、違いに気付いたり関わりやつながりが感じられるような幼稚園づくりを目指す。そのために、一人一人の発達や育ちにに応じて、環境や援助の工夫をしていき、幼児期に育みたい資質・能力を意識しながら教育活動を展開していく。担任との信頼関係を基盤にしつつ、全教職員で全園児と丁寧で温かく全園児を理解し関わることで、一人一人が安心して、伸び伸びと力を発揮でき体験の積み重ねと援助の中で、自己肯定感を育み友達と一緒に過ごす楽しむ姿になると考える。自然環境を始めとする本園ならではの特色を生かし、ICT 機器も活用しつつ、様々な感情体験や直接体験、感動体験に保護者も巻き込んでいき、共感・共有を重ねていながら、保護者との連携も強化していく。

「地域にある幼稚園」として、子どもたちが地域の中で豊かな体験や様々な人との出会いを通して、人への親しみ、楽しさが感じられるようにしていく。また、近隣の小学校、保育園との連携の方法も工夫して、架け橋期の教育の実践を目指し、研修にも積極的に参加し、連携の中心を担っていきけるよう努める。また、幼稚園が地域の未就園児親子の居場所となるような取組の実施を推進していき、地域の幼児教育をリードし、地域に根ざし信頼・必要とされる幼稚園となるための方策を考えていく。

保護者とも信頼関係を築き共に子育てをする共育を進めていけるように努める。保護者同士が子育ての仲間として笑顔で助け合いともに育ち合っていけるように支えていく。

教職員で様々な危機管理意識を高めていくために、定期的に危機管理マニュアルを確認し合い、組織としての危機管理能力を高めていく。

今年度の園経営は、保護者や地域のご理解ご協力の下、年間を通してお力添えをいただき、関係各部署との連携や情報収集を重ねながら行うことができた。次年度も、子ども、保護者、そして教職員の学びと育ちの充実に向けて、質の高い教育実践が行えるよう研修に努め、園長自身も学びを深め幅広く情報収集をしながら園経営を推進していく。